

箱崎が変わる！！**箱崎まちづくり新聞**

発行者 箱崎まちづくり協議会
 事務局 箱崎公民館内
 電話 651-7708
 ファックス 643-0044
 印刷所 国崎美峰堂

新年のご挨拶

箱崎まちづくり協議会
 会長 戸次 義雄



新年 あけましておめでとうございます。みなさまにおかれましては輝かしい新春をお迎えなされたこととお喜び申し上げます。

さて、新世紀は、国内的には小泉内閣の誕生に伴う構造改革の断行、国際的には世界中を震撼させた予想もつかないアメリカでの同時多発テロでスタートを切りました。

2002年は、なんとなく暗いイメージの中での出発ということですが、わがまちおこしのスタンスは、「おらがまちは、おらが考えて、築き上げる」ということです。

5カ年を経過した当まち協は、住民1人1人が主人公であると呼びかけ、各事業を行って参りました。まだまだ十分のご理解とご協力を得られているとは思いませんが、これからの活動もみなさまの合意を得ながら邁進したいと思います。

ところで、新箱崎駅の高架工事も見見るうちに形を現してまいりました。

昨年、JR九州の石井会長と箱崎・宮松両まちづくり協議会役員との会談を行った時のことです。新駅舎はもちろん、高架下も、今までの暗いイメージではなく、周辺の環境とマッチしたものをとの抱負を語っていただきました。そして今後も地域に根ざした駅舎づくりを進めるため、定期的な会合を持ちましょうという約束をいただきました。みなさまから

も是非、お声をお寄せ下さい。

最後になりましたが、この1年がみなさまにとって健康で明るい充実した年でありますようお願いもうしあげます。

まちづくりの仲間、大募集

箱崎まちづくり協議会は、平成8年につくられた箱崎のまちについて考え、提案し、活動していくまちづくり団体です。これまで各種団体の委員さんなどを中心に活動してきましたが、今回、**委員さんを公募**することになりました。

まちづくりに興味のある住民のみなさん、箱崎をもっと住み良いまちにしていきたいみなさん。

是非是非参加して下さい！！

お問い合わせは公民館まで（651-7708）！！

現在、まち協は、①箱崎の歴史を学び文化や伝統を守っていく活動、②箱崎の道路やインフラなどについて考え提案していく活動、③箱崎のコミュニティ活性化をはかる活動などを、部会に分かれて行っています。新年度は、さらに、「より開かれたまち協」「より開かれたコミュニティ」をめざします。みなさんのご参加を心よりお待ちしております。

絶対見てね！

第6号の 主な内容

- ◎特集 探検・体験九州大学・九大跡地アンケート p. 2-5
- ◎第2回まちづくりワークショップ報告 p. 6-7
- ◎歴史・文化部会報告 p. 8
- ◎箱崎四方山話 p. 8

探検！ 体験！ 九州大学

まち協九大跡地部会では、これまで九大跡地利用についていろいろな角度から考えてきました。今回は、跡地部会から九大探検とアンケート調査の報告をします。

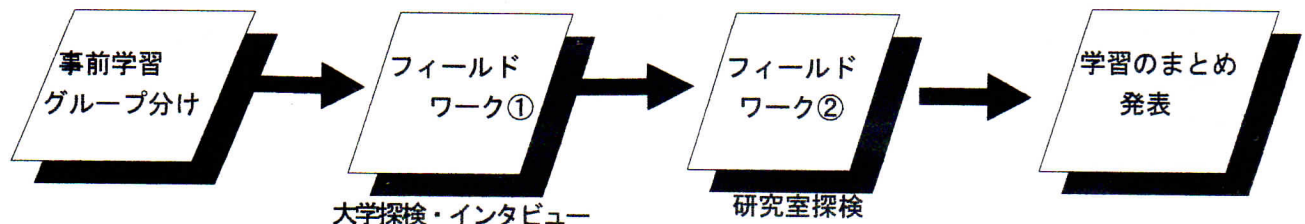
昨年11月、箱崎小学校の5年生56人が、総合学習の一環として、「探検！体験！九州大学」と題して、大学内の探検を行いました。探検に先立ち、九州大学の南教授からは「九州大学の紹介」、まち協九大跡地部会の箱嶋部会長からは、「九州大学の移転計画の概要」の説明がありました。

子ども達は、まちづくりコンサルタントの十時さんに教えてもらいながら、ワークショップによって課題をグループごとに作成、元気に探検に飛び出していきました。講義を聴いたり、教官や外国人留学生にインタビューをしたりと大活躍だった子ども達の感想は、「九大の中って、こんなに広かったんだ。」「大きな木や古い建物がたくさんある」など様々。みんなとっても楽しんだようです。

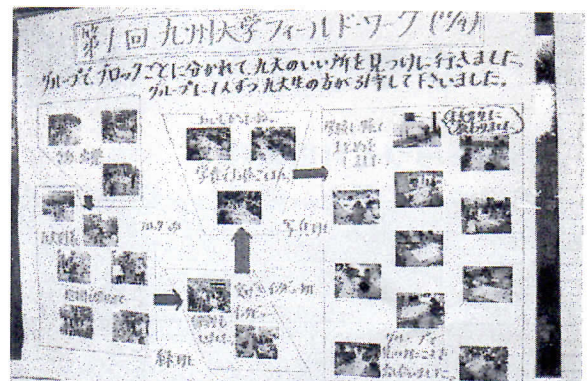


これから大学探検に出発！！

全体のスケジュール

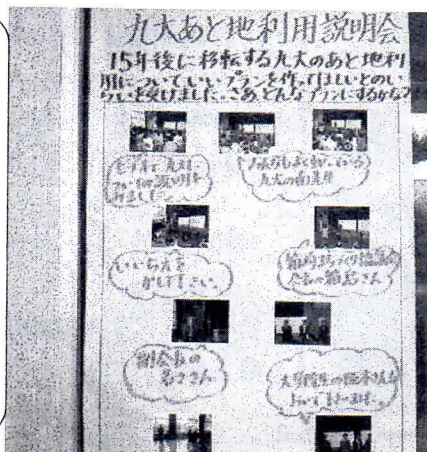


5年生による九州大学の探検結果は、11月17日に箱崎小学校で発表され、まち協メンバーも参加しました。子ども達の目は、本当に新鮮！私たち大人の知らない九州大学の良いところ、おもしろいところを子ども達の目を通してたくさん教えてもらいました。



フィールドワークの流れ

フィールドワーク2に向けて



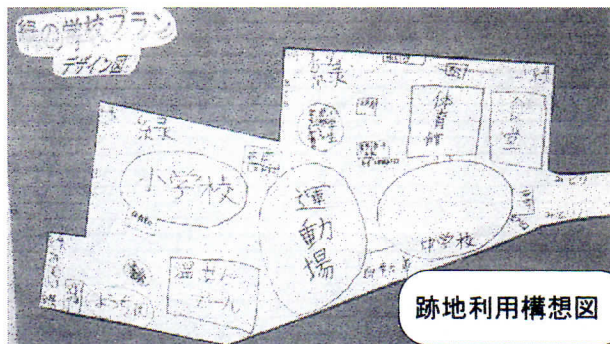
下級生達も見学に！

九州大学跡地利用大作戦！

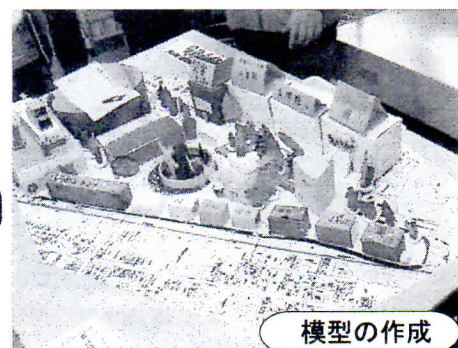
探検を通して、大学を大いに身近に感じたという子ども達。今度は、九州大学移転後の跡地について、「自分たちならどんな風に利用するか！」考え、「跡地利用計画」作成にチャレンジすることになりました。

計画作成に当たっては、グループごとにアンケートやインタビューを実施！！さらに、「利用計画」に基づいて、模型作りにまで取り組む気の入れようです。

「普段の学校の授業とは全然違う」と、最初は苦戦していた子ども達ですが、最後はアイデア満載のすばらしい跡地利用構想（デザイン図）が完成しました。

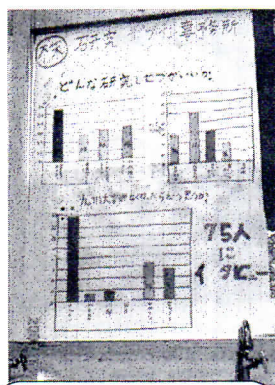
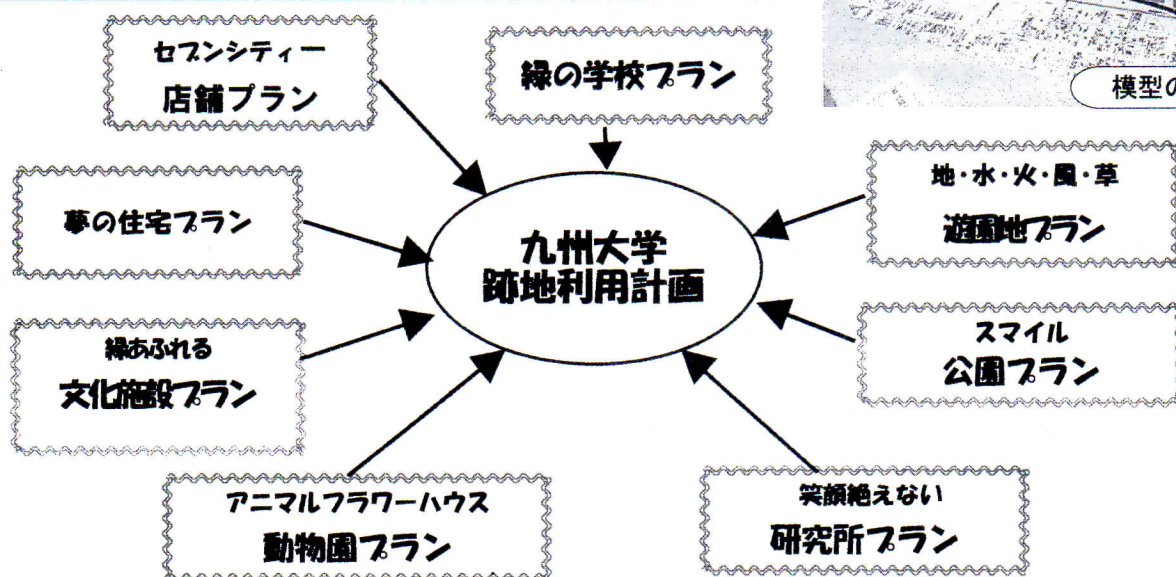


跡地利用構想図



模型の作成

アイデア満載！箱崎小学校5年生の「九大跡地利用構想」



アンケート結果

「九州大学跡地利用大作戦！」は、12月11日に学習発表され、各グループとも自分たちの跡地利用計画を熱心に説明していました。

計画には、遊園地や動物園を作る構想、小学校から高校までを作る構想、大きなショッピングセンターと既存の商店街を一緒にして地域の活性化を図る構想などがあり、次々と出る大人顔負けの構想に、参加したまち協メンバーや地元の方達もビックリ！跡地利用が本格的に始動するまでにはまだ時間があるかもしれませんが、今の段階で、自分達のまちの将来について真剣に考えたことは、子ども達にとっても、私たち大人にとっても大いに意義のあることではなかったでしょうか。



緑がいっぱいの自信作

突撃！？

アンケート調査を実施！！



突撃アンケートの模様です。

寒かったなあ・・・雨で・・・

子ども達がんばっているのに、大人達が黙っているわけにはいきません！！

11月14日、小雨の降るなか、まち協と九大まちづくり学生チーム(CUBU)のメンバーが、九州大学構内で跡地利用を含めたアンケート調査を実施しました。対象は、大学生・大学院生・教職員。なんと**310名**の方から回答を得ることが出来ました。

回答からわかったのは、「**箱崎は比較的住みやすいまち**」だとみんなが考えていること。食堂(飲食店)、コンビニ、スーパーは、よく利用されていました。また、交通の便が良いとの意見が多い反面、**うるさい、治安が悪いという意見も**。子ども達の生活環境を考えた場合に心配な一面が地域にあることがわかりました。

大学生へのアンケートでは、37.8%が、箱崎近辺に住んでいるとのこと。ただし箱崎に住んでいない残りの学生のうち72.4%が「箱崎に住んでみたいくない」との回答でした。また箱崎にないもののトップは、「**娯楽施設**」でした。いろいろ考えさせられる結果ですね。

こんなことを聞いてみました！

九州大学跡地利用に関する
アンケート

- (1) はじめに、あなたはどれに当てはまりますか？
1. 学部生 2. 大学院生 3. 教職員 4. その他
- (2) あなたのお住まいはどちらですか？ まちの名前を教えてください。
- (3) 箱崎キャンパスまでは、どの交通手段でこられますか？
地下鉄(箱崎九大前・貝塚) バス(九大北門・九大前) JR
バイク 自転車 徒歩 その他()
- (4) 箱崎に住んでおられる方にお聞きます。ズバリ、箱崎は住みやすいですか？
1. はい 2. いいえ
その理由を教えてください
- (5) 箱崎に住んでいない方にお聞きます。ズバリ、箱崎に住んでみたいですか？
1. はい 2. いいえ
その理由を教えてください。
- (6) 箱崎(大学周辺)で一番利用するものは何ですか？
- (7) 箱崎(大学周辺)には、何がないと思われますか？
- (8) 大学は箱崎にありますが、箱崎で生活しているという実感はありますか？
- (9) 今いる箱崎キャンパスが移転した後、どのような利用を望みますか？

気になる跡地利用の希望は・・・・・・ ?????

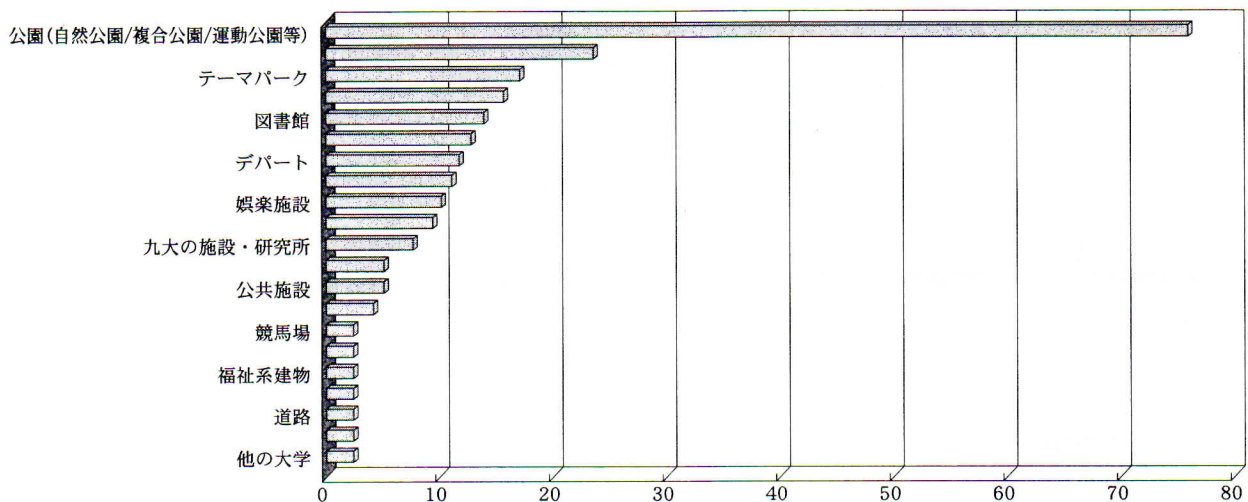
九州大学の跡地利用については、様々な意見がありましたが、大学生・大学院生・教職員、それぞれが現在の九州大学の状況をいかしたものの、特に緑をいかした公園施設としての利用方法を求めており、いかに九州大学内に緑が残っているか、私たちの生活環境の中に緑が必要であるかを実感しました。

今後は、小学生が作成してくれた跡地利用計画や、アンケートの調査結果を踏まえて、まちづくり協議会としての跡地利用計画を作成していきたいと思えます。

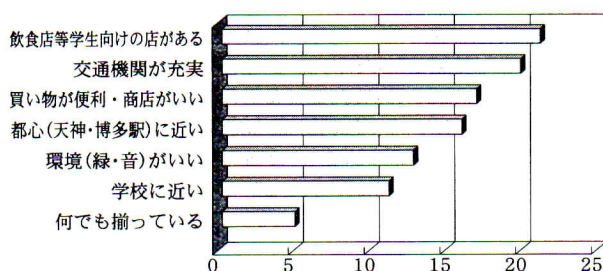
跡地利用計画策定には、幅広い地域のみなさまのご意見が欠かせません。「こうしたらよいのではないか」「こういう施設があったらよいと思う。」などご意見がありましたら、是非まちづくり協議会までご連絡下さい。

みんなの意見・・・・グラフで見ると・・・・

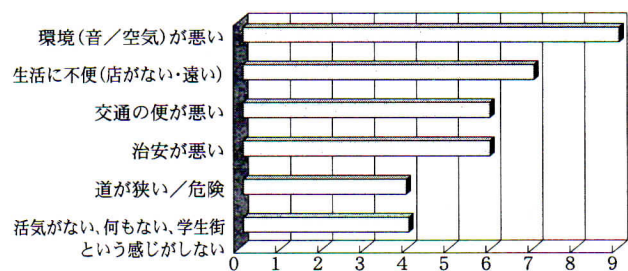
大学移転後の跡地利用



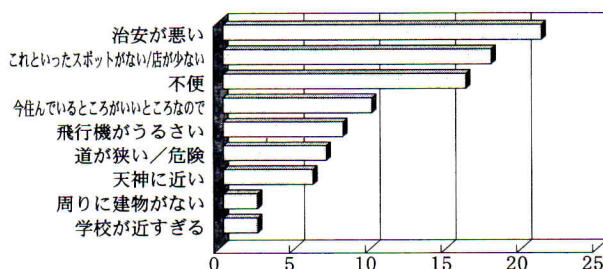
箱崎が住みやすい理由



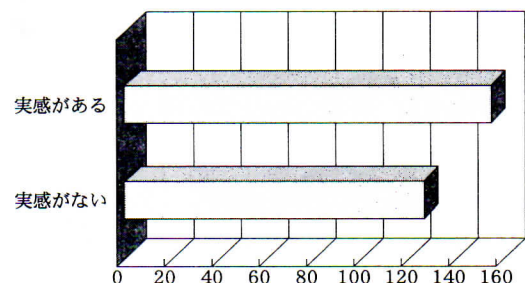
箱崎は住みにくい理由



箱崎に住んでみたたくない理由



箱崎で生活している実感



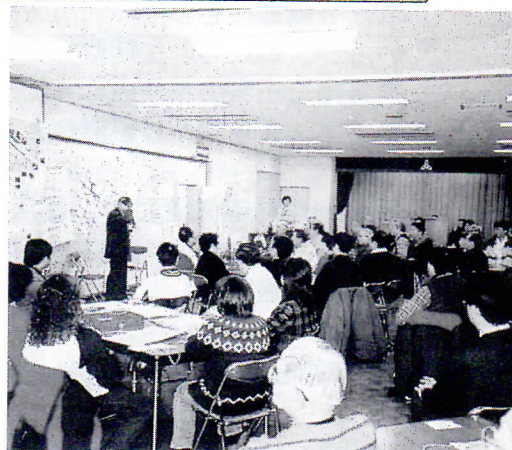
「みちからまちを考えまっしょ」

第2回 はこざきまちづくりワークショップ

平成13年9月8日、第2回箱崎まちづくりワークショップが開催されました。「まち歩き」の第1回ワークショップ（平成13年3月）から約半年。各種団体、住民の方々の協力により、忙しい地域行事の日程調整を図ってようやく実現しました。

第1回ワークショップで最も多くの意見が出されたのは箱崎の「みち」について。今回は、その「みち」の重要性に着目し、「みちからまちを考えよう」をワークショップのテーマとしました。

休日の貴重な時間にも関わらず、50名あまりの参加者が集まり、和気あいあいの中にも活発な意見のやりとりがあり、箱崎のまちづくりの進むべき方向性が熱心に語られる有意義な時間となりました。



ワークショップの取り組みの経緯

第1回 箱崎のまちづくりワークショップ
（平成13年 3月）
「まち歩き」 まちの点検チェック



第2回 箱崎のまちづくりワークショップ
（平成13年 9月）
「みちからまちを考える」まちの問題の整理

全体の流れ

プログラム

- 10:00 開会
- 10:20 グループ分け
- 10:45 箱崎まちづくりクイズ
- 11:10 まちみちプランを見てみよう
- 12:00 カードによる課題チェック
- 12:40 将来イメージを語ろう
- 13:00 発表

1. グループによる作業、意見交換



話し合いの基本は、グループ単位。1人ひとりの意見を丁寧に聞き取り、立場による意見の違いを認め合いながら、全体の意見へと絞り込んでいきます

2. 活発な意見を引き出す情報提供

箱崎のまちの現状、道路の計画等、これからに関する情報をクイズや図面を使って、わかりやすく楽しく提供しました。



3. みんなで考えをまとめる

十分な意見交換を行った後、カードを使い、意見のとりまとめ、発表を行い、まちづくりの将来像につながる重要課題を確認しました。

第2回 箱崎まちづくりワークショップのまとめ

第2回のワークショップでは、前回のワークショップとその後の住民の人たちの意見を参考に、箱崎の考えていくべき課題を示してみました。

このカードをもとに、8つのグループで、箱崎が今、そしてこれから考えていくべき大切な課題を様々な角度から出し合いまとめていった結果が、右図の通りです。

お年寄り、主婦、店主、会社員等が、それぞれ違った立場から箱崎のまちとの関わり、価値観を見直すことで、箱崎のあるべき姿を具体的に思い描いていくことができました。

見習いチームベスト3

- ①住民のマナー意識の向上
- ②大学通の交通規制
- ③地域福祉の充実

鉄人チーム

- ①商店街の活性化
- ②本通りの計画道路問題
- ③緑のある潤い

超人チームベスト3

- ①歩きやすい道路
- ②ワンルームマンション規制

名人チーム

- ①大学通の将来像
- ②マナーが基本
- ③魅力ある商店街と福

新人チームのベスト3

- ①歩きやすい道路整備
- ②伝統行事の保存復活
- ③マナーを守る明るい

研修チームのベスト3

- ①本通りの都市計画道路を早く
- ②伝統ある行事の保存
- ③安心して暮らせる拠点の整備

達人チーム

- ①人に優しい道路
- ②伝統あるまち、がんばれ商店街
- ③緑あふれるまち花いっぱい

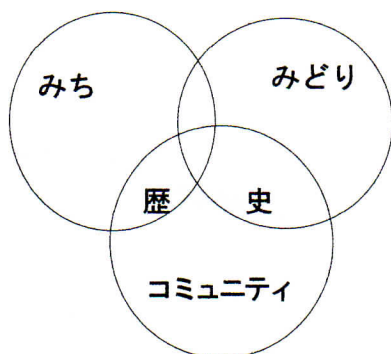
内定チーム

- ①大学通の規制イメージの検討
- ②ワンルームマンション規制
- ③伝統行事の継承

見えてきた箱崎のまちづくりの大切な課題とは・・・

各グループで選択された課題カードとカードが選ばれていった議論の背景をまとめると右のような具体的な事項が浮かび上がってきました。

課題カードでは、圧倒的に大学通り、電柱の景観、老人・バリアフリー、伝統行事等に関心が高く、これまで議論されてきた幹線道路、商店街をはじめ、これから確実に直面していく老人福祉、緑等の重要性が確認される結果となりました。



◆課題カードの選択とそのまとめ

主に出された課題カード

- (1) 大学通の交通規制
- (3) 大学通の都市計画
- (11) 電柱の景観
- (5) 老人バリアフリー
- (4) 駅、ネットワーク
- (6) 商店街、お宮協力
- (16) 商店街活性化
- (17) 伝統行事
- (12) 住民マナー
- (19) ワンルームの規制
- (14) 老後拠点
- (27) 中心拠点
- (15) まちなか公園
- (17) 店先、花木
- (8) まち中緑

テーマと方針

大学通り

- 将来像、将来イメージ
- 都市計画実現、交通規制

歩きやすい道

- 人にやさしい
- 歩きやすい

商店街

- 魅力

伝統歴史

- 保存、復活

意識向上

- ワンルーム規制
- マナーを守る明るい事業

拠点

- 安心して暮らせる

ゆとりと潤い

- 緑あるまち

箱崎の重点課題

- ① 交通ネットワークの体系を明らかに（幹線、歩行者ネットワーク・大学通の検討）
- ② 水・緑による潤いのある街並みや景観を守り、育てていく方策
- ③ 箱崎らしい、歴史とたたずまいのある景観、環境の守り方、活かし方（伝統行事含）。
- ④ 住民相互の連携を持ったふれあいのあるコミュニティの再生。

宇美町極楽寺歴史探訪について

(報告・お礼)

(文永の役時 宮崎宮と宇美極楽寺の故事に関する 歴史研修)

歴史文化部会では、春の宮崎宮、東公園方面、元寇史跡探訪について、第二回目の歴史探訪、宇美極楽寺バスツアーを10月29日(月)に実施した。心配された前夜来の雨も出発の折には日和となり、午後は青空の下の爽やかな研修となった。

文永11(1274)年10月、ふるさと博多、箱崎に蒙古の襲来があった。今から727年前の10月20日のことである。文永の役といわれるこのとき、箱崎一帯は火の海となり、宮崎宮も炎上した。ご神体は、宇美・極楽寺へ移し奉られたが、その後700年にわたる極楽寺部落の人びとと箱崎宮の故事をこの機を捉え、勉強しようとの多くの要望に添って今回の研修となったのである。

定刻10:00前、戸次会長挨拶のあとJR箱崎駅前を出発した貸切バスは、40余名の参加の人びとを乗せ一路宇美へと向かった。宇美八幡宮では夫々参拝のあと、大楠の下で記念撮影を行う。山手の極楽寺に向かい、入り口でバス下車、なだらかな登り口を三々五々、極楽寺へ歩を進める。色づいた樹木、柿もたわわに枝を垂れ、稔りの秋を実感する。

境内入り口の元寇700年記念として建立の宮崎八幡宮奉遷の地の記念碑(宮崎宮田村克喜名誉宮司外建立)が一際目につく。音ひとつない極楽寺の里。整備された境内の仏像群。宝満、三郡の山懷に抱かれた静寂の山里に、向って左に極楽寺八幡宮、右に観音堂が鎮ります。裏手には昼なお暗き竹林である。それぞれ参詣のあと、文永の昔を偲ぶ。少し降ったところの極楽寺集会所は最近建ったものであろう清潔で美しい。ここで朱雀信城先生(太宰府市史編纂室)より「蒙古襲来と宮崎」のテーマのもと、講話を聞く。用意された資料を使って、様々のことを学び研鑽を深めた。さらに弁当をつつきながら、交歓のひとつときを過ごした。極楽寺部落の長老松田様や三名のご婦人方がわ



ざわざお出かけ下さり、会場提供や湯茶の準備など心のこもったご接待をいただいたのは感激であった。多くの年輩者の参加を予定し、無理のない日程をくんだが、参加者のご協力もあって、早め早めに進行し、帰りにバスを急遽博多駅前の旧出来町にある「時宗」時代の博多の恩人、宋よりの帰化人、謝国明の墓(通称大楠様)に廻り参詣することが出来たのは幸いであった。

朱雀先生、極楽寺部落の方々、そしてJRバス手配の藤永JR駅長さん、民生委員、公民館の方々、参加者のみなさまのご協力に感謝し、バスツアーが無事故で終わりましたことを心から喜び厚くお礼申し上げます。(この計画は、商都博多の歴史・文化を掘り起こす市民の会より女性をいただいた。)

歴史・文化部会 古田、井上、山口

